

ルーフラミテクト® シリーズ

透湿 ルーフラミテクト®BK ルーフラミテクト®RX

非透湿 ルーフラミテクト®Z ルーフラミテクト®Z 遮熱タイプ ルーフラミテクト®Z 粘着タイプ ルーフラミテクト®EX

施工説明書 施工業者様用

施工
する
前に

●用意するもの

当商品、ハンマータッカー、ステープル釘、カッターナイフ、屋外用防水テープ、メジャー

●施工前の注意事項

- (1) 原則として3寸勾配以上の屋根で使用してください。3寸未満の勾配屋根で使用する場合は重ね部に防水処理等を施してください。
- (2) 施工現場の環境、状況（寒冷地帯、強風地域、屋根の勾配・形状など）に適した屋根仕様を検討してください。
- (3) 屋根上葺材とシート間で湿気排出が可能となる納まりとしてください。
非透湿の商品（ルーフラミテクト®Z、ルーフラミテクト®Z 遮熱タイプ、ルーフラミテクト®Z 粘着タイプ、ルーフラミテクト®EX）は除きます。
- (4) 野地板に目地空きや段差がある場合は修正してください。
- (5) 当商品は屋根上葺材との組合せで初めて住宅に求められる防水性を確保出来ます。表層には使用できません。
- (6) 施工前に野地板表面の清掃を行ってください。また、釘等による凸部がある場合は平滑にしてから施工してください。
- (7) 野地板は十分に乾燥した状態で施工してください。
- (8) 当商品には表裏があります。正規の性能を発揮するために、商品名印刷面を表側にして施工してください。
- (9) 強風による釘抜けを防ぐため、求められるステープル釘の足長は野地板が杉板の場合10mm以上、合板の場合8mm以上のものを使用してください。
杉板（パラ板）の場合は、ステープル留めの数を控えてください。
- (10) 防蟻・防腐加工された桟木等は薬剤が十分に乾燥していることを確認してください。
- (11) 搬入時に投げるなど乱暴な扱いはしないでください。

施工方法（施工例）

I シート張り

(1) 敷設開始

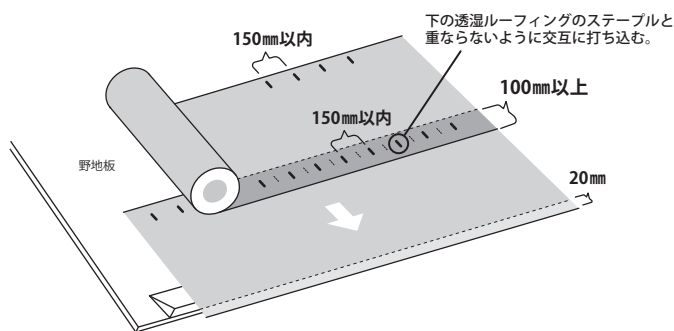
野地面上に軒先と平行に敷込んでください。軒先先端より 20mm 程度出し、順次上り方向に張ってください。ステープルの留め付けは、重なり部分の下の透湿ルーフィングに 150mm 間隔で留め付け、上のシートを留める時は 100mm 以上重ね（シート上に印刷されている点線が目印です）、下のステープルと重ならないように交互に打ち込みます。

※製品に印刷されているマークの間隔が 150mm となっています。

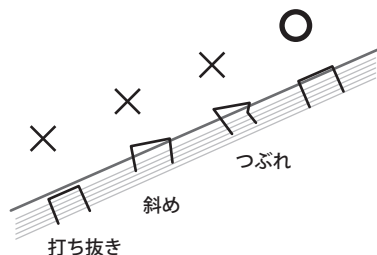
ステープルの留め付けは正確に行ってください。

※高勾配の場合は、シート上を歩行する際にシートと野地板表面のズレが発生するおそれがあるため、商品のセンターライン上にも約150mm間隔でステープル留めを行ってください。

※強風のときシートがあおられ、危険が及ぶ場合はシートのセンターライン上を約 150mm 間隔でステープル留めを行ってください。



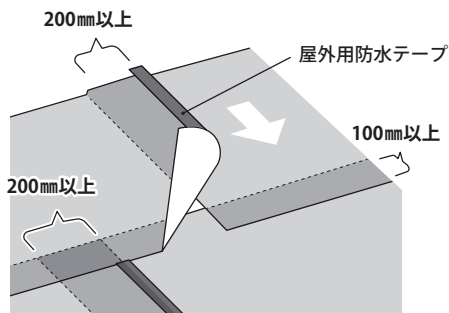
ステープルの留め付けは正確に行うこと。



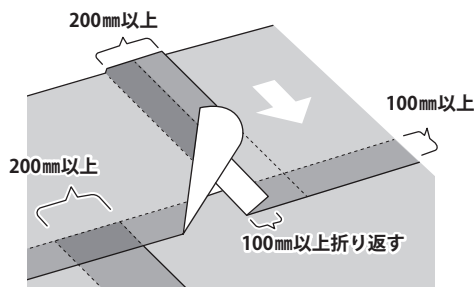
(2) 重ね代

シート同士の重ねは、幅方向は 100mm 以上、長手方向は 200mm 以上重ね合わせてください。長手方向の重ねは、屋外用防水テープを張ってください。屋外用防水テープを貼らない場合は、下側にくるシートの端部を 100mm 以上折り返し、上側にくるシートを 200mm 以上重ねてください。長手方向の重ね部は、それぞれが集まらないように施工してください。

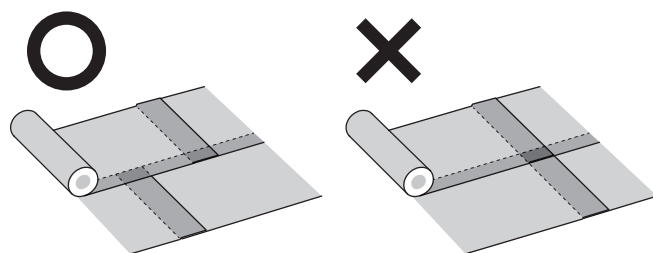
防水テープ有りの場合



防水テープ無しの場合



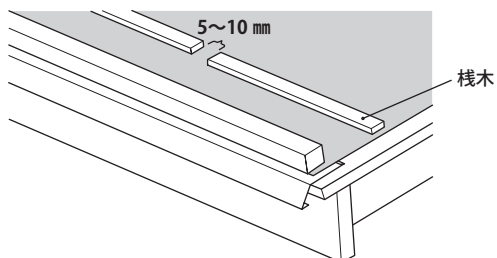
長手方向の重ね部



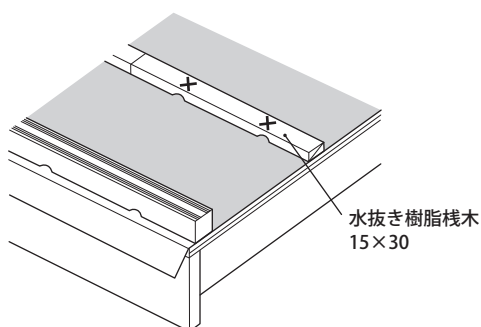
(3) 棧木の施工

瓦棧の施工は、流し棧工法や溝が加工された棧木を使用し、瓦棧に雨水等が滞留しないようにしてください。溝が加工されていない瓦棧の場合は、繋ぎ部分を排水を妨げないように約5～10mmの隙間を設けて施工してください。

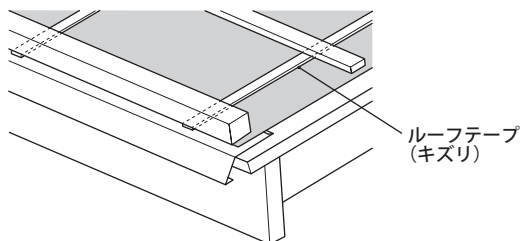
溝が加工されていない瓦棧の場合



溝が加工された棧木の例



流し棧工法の例



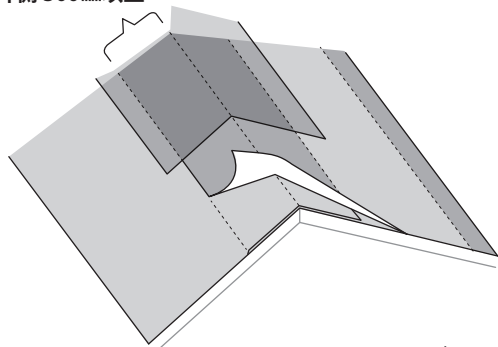
Ⅰ各部位ごとの納め方

(1) 棟部、隅棟部

棟部はおのおの重なりが300mm以上確保できるように折り掛けて張ってください。更に、棟頂部から左右に折りかけるように増張りしてください。

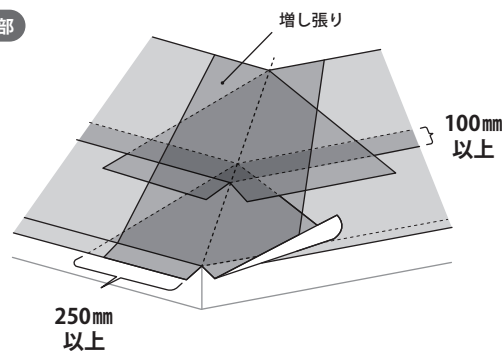
棟部

片側 300mm以上



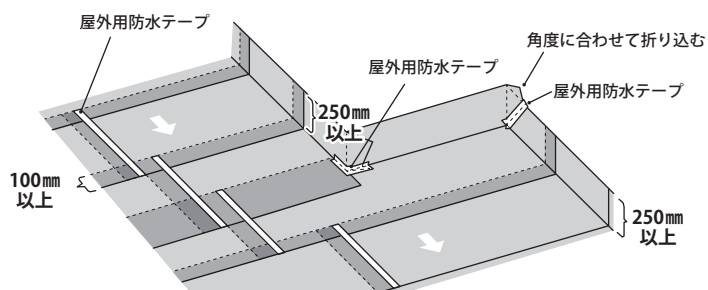
隅棟部に関しても250mm以上の重なりが充分確保できるように折り掛けて張り、更に棟頂部から左右に折りかけるように増張りしてください。

隅棟部

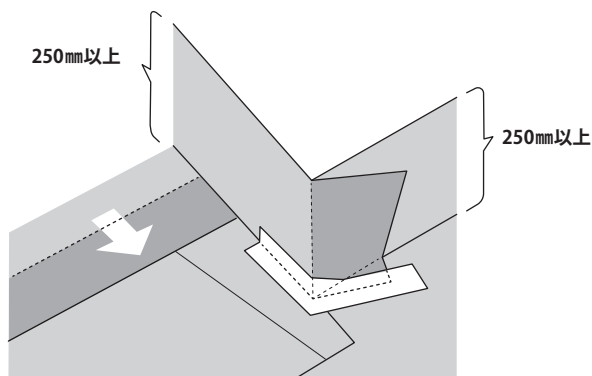


(2) 壁面立ち上り部

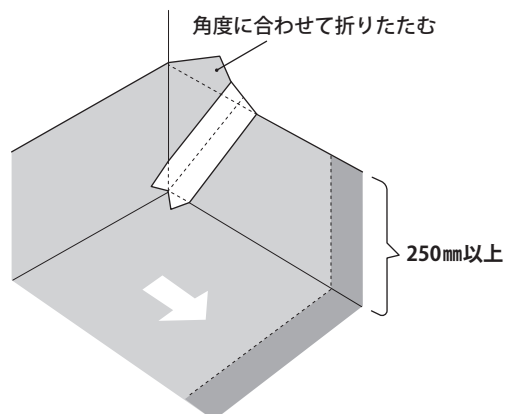
壁面に沿って250mm以上、立ち上げてください。雨押えを用いる場合は、雨押え上端より50mm以上の立ち上げを確保してください。小さい穴が出来るおそれがある出隅、入隅は屋外用防水テープ等での補強処理をします。



出隅

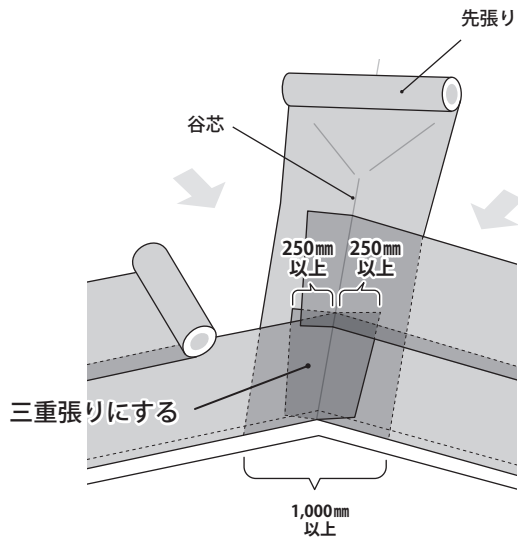


入隅



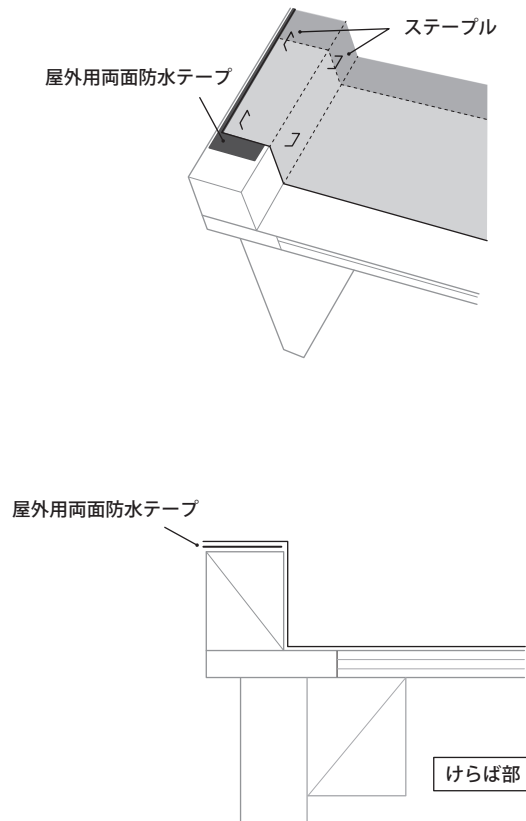
(3) 谷部

谷芯に沿って野地板に密着させるように1000mm巾の当商品を先張りのうえ、更に左右に250mm以上折り掛けをし、二重に重ね合わせてください。



(4) けらば部

端部は登り淀の上端まで覆うように折返して被せ、さらに屋外用両面防水テープで防水処理してください。

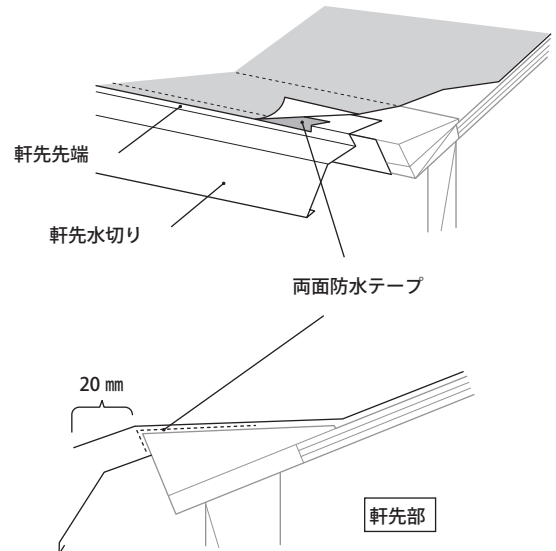


(5) 軒先部

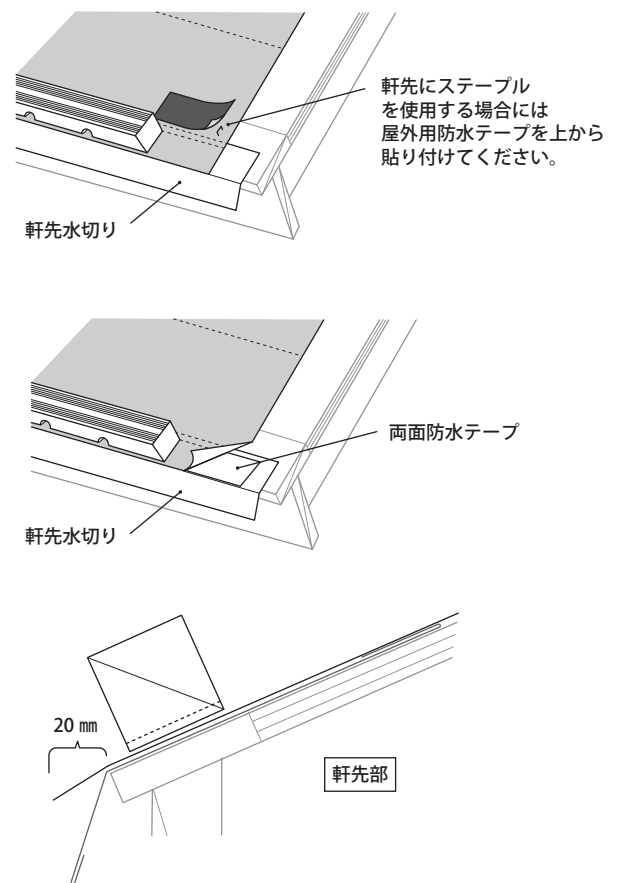
瓦座や広小舞、鼻隠しの上側まで覆うように貼ってください。端部の浮き上がりが無いようしっかりとステープル留めや両面防水テープ止めをしてください。水切を使用する際には両面防水テープを使用してください。また、重ね貼りも施してください。鼻椋の施工は、流し椋工法や溝が加工された椋木を使用し、雨水が滞留しないようにしてください。軒先にステープルを使用する場合には屋外用防水テープを上から張り付けてください。

- 瓦屋根の場合の納まり一例 -

一般的な納まり例



溝加工の椋木を使用する場合



I その他

- (1) 細部の納まりについては、本要領書を基準とし防水の面から十分に納めを確認・検討の上、責任を持って施工を行ってください。
- (2) 天窓周りは、天窓付属の施工要領書に従って施工してください。

●施工時の注意事項

- (1) ステープル留めが不十分だとシート自体が野地板から滑り落ちるおそれがあります。
- (2) 必要以上に1ヶ所にステープルを打ち込むとシート本来の強度が発揮されずやぶれ、穴あきなどが発生するおそれがありますので注意してください。
- (3) 防水テープはアクリル系、ブチル系の屋外用防水テープを使用してください。ゴムアス系の粘着テープは使用しないでください。
- (4) 木材の角や鋭利な物およびハンマータッカーのヘッド角などが強く当たると、傷が付くおそれがあります。
傷が付いた場合には張り直すか、防水テープなどで補修してください。ステープルの打ち損ないも防水テープで補修してください。
ステープル及び釘などを抜いて打ち直した場合にも同様の処置を施してください。
- (5) 表面に釘、木片などがあり、その上を歩くと傷、穴あきなどが発生するおそれがあります。
表面の清掃を行いながら施工を行ってください。
- (6) 野路がバラ板の場合、ステープル留めが板の隙間に入り空打ちになると、傷付くおそれがあります。その場合、防水テープなどで補修してください。
- (7) ステープル釘はシート本来の止水性、強度を最大限発揮するため、重ね代の上に約150mm間隔で施工してください。
必要以上に釘止めた場合は、漏水を招くおそれがあります。
- (8) けらば、軒先の施工は、シート端部と野地板に隙間を無くするため、シートの浮き上がりが無いようしっかりとステープル留めや両面防水テープ止めをしてください。
- (9) 弛みやシワが生じないように施工してください。

●施工後の注意事項

- (1) 屋根上葺材は、シート施工後速やかに施工してください。
- (2) 屋根上葺材を仮置きする場合は、落下のおそれがありますので、防止対策を施してから、施工を行ってください。
- (3) 施工後、屋根上葺材の施工までに期間があり、暴風雨発生のおそれがある場合、全面を養生シートで覆ったり各端部や流れ方向の重ね部などを浮き、はがれないよう仮押えなどの処置を施してください。

安全作業上の注意

安全のために必ずお守りください。

⚠ 危険 誤った取扱により死亡や重傷に損害に結びつくもの

ⓘ 「かならず行なうべきこと」をさします。 ❌ 「してはいけないこと」をさします。

- ⓘ ・屋根下葺工事は屋根からの転落の危険があります。安全対策をした上で作業を行ってください。
 - ・屋根下葺工事時は転落防止のための足場や防護ネットを設置してください。
 - ・屋根下葺面から器物が落下しないようにしてください。屋根材の積み上げ、破材、施工用具等の取扱は落下しないように処置を行ってください。
- ❌ ・天候が悪い時には作業を行わないでください。(降雨、降雪、強風、凍結時など)

⚠ 警告 誤った取扱により死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

- ⓘ ・安全保護具は普段から手入れを行い、作業前と後に必ず点検をしてください。異常がある場合は直ちに使用を中止してください。
 - ・工具はメーカーの取扱い注意事項に従い安全に使用してください。
 - ・高所作業に適する服装、安全装備（ヘルメット、命綱など）、滑りにくいクツを必ず着用してください。
 - ・靴底に土、砂、汚れなどの滑りやすいものが付着していない事を確認してください。
 - ・足場は必ず掛けて施工してください。
 - ・シートの上に乗る場合は、シートをステープルなどで固定してから乗ってください。
 - ・施工前の巻いた状態のシートを屋根勾配上に置く場合は滑り防止や落下防止の処置を施してください。
 - ・屋根上からシートやその端材などを投げ捨てないでください。

⚠ 注意 誤った取扱により重傷または家具・家財などの損害に結びつくもの

- ⓘ ・防蟻・防腐処理された桟木を使用される場合は、雨で濡らさないようにしてください。
- ❌ ・当製品を目的（住宅屋根下葺き材）以外の目的で使用しないでください。

お願い

- 当商品の保管は、50℃以下で水が掛からず、直射日光が当たらない場所に横積みにして保管してください。
万が一濡れた場合、シート断面からぬめりが出る場合がありますが、性能上全く問題ありません。乾燥させてお使いください。
- 当商品は高熱（110℃以上）によって溶けますので、火や高熱物を近づけないでください。
- 廃棄の方法は、一般的な産業廃棄物と同様に取り扱ってください。その他関係法令の定めるところに従ってください。